



市長特別対談

泉佐野市長 千代松大耕 × 同志社大学硬式野球部 平尾奎太

2020年開催の東京五輪で「野球」が追加競技に決定されました。日本チームの活躍が期待される中、野球を頑張る子どもたちにとって、夢が広がることでしょう。

本市出身で現在同志社大学4回生の平尾奎太選手にお越しいただき、野球について、夢に向かって進むことについて、市長と対談していただきました。

**市長** 本日はわざわざお越しいただき、ありがとうございます。お会いするのは2度目ですね。以前は高校生の時でした。

**平尾** はい、大阪桐蔭高校が甲子園で春夏連覇したときに訪問させていただきました。

**市長** 小学校2年生から軟式野球を始められたそうですが、なぜ野球だったのでしょうか。

**平尾** 父が甲子園に出場し社会人でも野球をしていたので、物心つく前から「野球」に携わっていました。逆に「野球」以外に選択肢はなかったです(笑)。小さい頃から父と野球をしている中で、父に追いつき追い越すことを目標として始めたのがきっかけです。

**市長** 段々と野球が好きになっていったということですか。

**平尾** 選択肢がなかったから始めたというよりは、物心つく前からやっていたうちに自然に大好きになっていきました。

**市長** 身長が188cmととても高いんですが、子どもの頃から大きかったのでしょうか。

**平尾** はい、ずっと大きかったです。小学6年生の終わりから175cmありました。自分より大きな小学生はあまり見たことがなかったですね。

**市長** ランドセル背負ってという感じじゃないですね(笑)。ピッチャーというポジションを選んだ理由はありますか。

**平尾** 背が高くても力も強かった。他の子よりスピードが速かったので、ピッチャーかファーストか外野という選択肢になりません。ショートやサードはファーストへの送球時にどうしても不利になるので、その中で一番やりたいのはピッチャーかなと。

野球も勉強も

**市長** 佐野中学校では軟式野球部に在籍をされていたそうですが、思い出に残っているエピソードはありますか。

**平尾** 中学校での選択肢は色々あったんですが、クラブチームだと練習が週4日とか少ないと2日になってしまうので、毎日野球がしたかったですし、高校になると毎日練習ですから慣れずにおこうと思って、学校のクラブに入りました。顧問の先生も

熱心な方でしたし、勉強も野球も両立して頑張りました。

**市長** それはすごいですね。トップアスリートになるような人は、スポーツだけではなく勉強でも、すべてに集中力があるんじゃないでしょうか。

**平尾** ただ、みんなが受験に向かってラストスパートする中で、私は先に推薦で決まっていたので、塾もやめて体力作りをして鍛えていました。だから、最後はみんなに追い抜かれて右肩下りの成績でした(笑)。

平尾 奎太 (ひらお けいた) 選手プロフィール

- 同志社大学硬式野球部 4回生
- ポジションはピッチャー
- 市立佐野中学校、大阪桐蔭高等学校 出身
- 高校2年生の秋に腎臓の病を患い、闘病生活を送るも、病を克服し実戦復帰を遂げる。今年4月より社会人野球での活躍が期待されている。



小学6年生  
大会で選手宣誓



小学4年生



高校3年生  
甲子園で2連覇



▲高校引退後、レッドスターズを訪問



病を克服して実戦復帰へ

**市長** 少しプライベートな話になりますが、高校生の時、腎臓の病を患い、闘病生活を送られたそうですが、野球選手をあきらめようと思ったことはなかったのでしょうか。

**平尾** 全くありませんでした。高校2年の秋に病気が見つかり、病院の先生からも高校野球はあきらめてマネジャーに専念してくれと言われたんですが、まだ甲子園に出られていなかったし、2年生の秋になってやっと主力メンバーに入れたところで悔いしか残らないので、どうしても引退までやらせてほしいとお願ひしました。引退後は治療に専念するという約束で。

**市長** そうして病気を克服して実戦復帰されたわけですが、強い思いを持ち続けてこられた「力の源」は何なのでしょう。

**平尾** 初めにお話ししたように、父を超えるということ。そして、プロ野球の選手になるという自己実現に対する思いですね。それから、闘病生活中に高校の先輩で阪神タイガースの岩田 稔投手が病室に来てくれたことがあって、実際に病気を乗り越えてプロで活躍されている選手のお話しを聞いたことは、すぐく力になりました。また、秋の大阪大会で優勝してチームメイトがそのまま優勝旗を持って病室に来てくれたのもうれしかったですし、入院中も両親はじめ監督やみんなが絶えず刺激を与えてくれたことがすごく励みになり、これで終われないと強く強く思いました。

野球の魅力は

**市長** 野球の魅力とは何でしょうか。

**平尾** 団体競技というところがすごくいいなと思います。ミスがない試合は無いと思うんですが、自分がミスしても他がカバーしてくれて、「ありがとう。次は俺がんばるわ」という風に自然にコミュニケーションができて、みんなで強くなっていくところが一番の魅力ですね。



**市長** 個人競技ではなくて、チームで頑張っていけるところに魅力があると。

**平尾** 自分の調子がよくてもエラーがあっても点を取られたり、調子が悪くてもファイブプレーをしてくれたり、どれだけ点を取られても点を取ってくれたら勝てるじゃないですか。そういう試合の流れができていく、何が起るかわからないチームプレーの醍醐味が楽しくて面白いなど。

**市長** 2020年東京オリンピック・パラリンピックで野球が追加競技に決定しましたが、オリンピックを意識したことは。

**平尾** まずはプロ野球選手になることを目標にしている、プロ野球選手の代表が日本を代表するチームになるわけですから、「JAPAN」と書いたユニフォームは着てみたいですね。

これからの目標は

**市長** 4月からは社会人として、プレーをされるそうですが、今後の目標はやはりプロ野球選手でしょうか。

**平尾** もちろん、プロ野球選手ですが、4月からは「Honor Bell」で頑張りたいと思います。1月中旬からは練習に参加予定で、先日少し参加させていただけなんですが、選手一人ひとりの取り組む姿勢が、やはり大学生とは違いますね。また、もうひとつ教師というのも興味があって、大学では教職の課程も履修していて、実は先日大阪桐蔭高校へも教育実習に行っていました。ずっとプロ野球選手を続けられるかどうかはわからないので、野球選手をやめたときに何をすればいいかわからないということにならないようにしたいと思います。

子どもたちにメッセージを

**市長** 最後に、野球やスポーツに限らず、夢や目標に向かって頑張っている人たちに、メッセージをお願いします。

**平尾** いざ就職となると自分のなりたいものではなく安定を求めたりとか、現実もあるとは思

いますが、子どものときは自分のやりたいことに向かって頑張ってほしいし、やりたいことは一つに絞る必要はないと思います。2つあるなら2つ追いかけてほしいなと思います。もちろん2つあれば2倍頑張らないとダメで、それは大変だと思いますが、自分が好きなことなら頑張れると思います。

僕も野球を始めた頃からプロ野球選手を目標にしている、やるからには一番上をめざすという強い気持ちを持って、一歩でも近づけると思っています。高校からプロに入る選手もいますが、僕のように社会人からプロをめざす選手もいるので、野球をやっている子どもたちは、急がずにプロをめざしてほしいと思います。

**市長** 応援していますので、頑張ってください。今後の活躍を期待しています。

